



9月

暑さも少しずつ和らぎ、涼しい風を感じられるようになりました。朝晩の気温差が大きい日が増えてきましたので、子ども達の健康管理に配慮していきたいと思ひます。

発表会について

今年度の0.1.2歳児の発表会はみそらこども園のホールで行われるようになりました。子ども達の慣れ親しんだ場所です。緊張することなく、普段通りの姿が見られるのではないかと思います。新型コロナウイルスの観点から、保護者の皆さまにご協力をお願いすることになりますが、よろしくお祈ひします。

★今年度も園での衣装着用せずにお家から着てきた服で踊ります。



少人数で踊っていると、「なんだなんだ」と他の子ども達が集まって来て一緒に踊りました。1歳児の子ども達もその輪に入り、年上のお友達もその様子を笑顔で見っていました。



いろいろな味に出会う時期、子どもの好き嫌いには理由がある



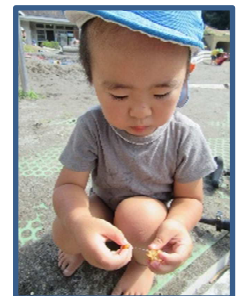
2歳児の食で大切なのは、いろいろな味との心地良い出会いをすることにあり、好き嫌いをなくなんでも残さず食べる事ではありません。子どもの食べ物の好き嫌いは、わがままからくるものではなく、味覚が敏感なためセキュリティのメカニズムが働いてその食べものを拒否している場合もあります。大人よりも敏感な感覚を持っている子どものたちは、特に苦味に敏感なために苦味のある野菜を拒否するということがあります。しかし、3歳を過ぎると、本能的に初めての物を警戒することが減ってきて、「ちょっとだけたべてみようかな」というような意欲や気持ちで食べられるようになってきます。それまで、急がずに待つことが大切です。たとえこの時期に、嫌いな物や食べたくない物があっても「大嫌いな食べ物」という印象にしなれば、いつか食べられるようになります。

『ていねいな保育実践のために』 井桁容子 汐見稔幸著書より

私たち大人が楽しい雰囲気の中で「おいしね」と食べると、子ども達も食べてみようします。一口食べてみると美味しさに気づき「ねえ、食べてみて」と他の子ども達に話しかけています。強要しなくても、友だちが美味しそうに食べる姿を見ているうちに自ら食べてみようとする姿が見られます。お家でも言葉のやりとりを楽しみながら一緒に食べてみて下さい。

10の姿のエピソード

園庭に咲いている朝顔の花びらを使って、色水を作っているお友達の様子を見つけ「なにをつくっているのかな」と傍で様子を見ているRちゃん。花びらを分けてもらい、別の容器に入れ大事そうに持って歩くT君。花びらの感触を確かめ「みてみて」と色の付いた手を見せるK君。色水づくりから、子ども達の興味・関心が広がっています。このエピソードには、共同性、自然との関わりなどの関心・感覚と表現が育っています。



この自然への関心から、こぶしの木の花の実に興味を持ち、触ったり、剥いたりする姿が見られました。